

第 66 期

ZAOH LETTER

2021.4.1 ▶ 2022.3.31

私たち蔵王産業は、
クリーンな労働環境や生活環境づくりに積極的に取り組み、
高品質な環境クリーニング機器を提案、提供する企業です。

● 売上高

8,949 百万円

前期比 31.1%増 ↑

● 経常利益

1,335 百万円

前期比 32.5%増 ↑

● 自己資本比率

85.5%

前期比 1.1ポイント減 ↓

● 1株当たり純資産

2,199.74 円

前期比 140.99円増 ↑

● 配当金

78 円

前期比 25円増 ↑

● 配当性向

38.1%

前期比 —

※2022年3月期第2四半期から完全子会社を吸収合併したことにより、非連結となりました。

売上、利益ともに過去最高を記録。
 気を緩めることなく改革を進め
 中長期での成長を目指します。



代表取締役社長 **沓澤 孝則**



**当期2022年3月期の業績について
 お聞かせください。**



2022年3月期における業績については、売上高8,949百万円、営業利益1,286百万円、経常利益1,335百万円、当期純利益1,170百万円となり、売上、利益ともに過去最高になりました。

その要因としては、ワクチン接種の普及やコロナ禍における新たな行動様式が浸透し、対面での提案営業の機会が戻りつつあり、業務用清掃・洗浄機の各商品群の需要が回復してきたことが挙げられます。特に、巣ごもり需要に加え、SNSでの発信をはじめこれまでの取り組みの中で認知度が高まってきたこともあり、コンシューマー向けの商品が大幅に伸び、売上に寄与しました。商品としては、カーペット、ソファなどの汚れを水ですすぎ洗う家庭用リンサーをはじめ、高圧の水で汚れを取る高圧洗浄機、蒸気の熱でキッチンや換気扇の汚れを落とすスチームクリーナーが好調でした。

また、業務用では、スティック型バキュームクリーナーの「スピアーサイクロンプロ」を2021年2月に投入しましたが、低コストで、軽く女性や高齢者でも扱いやすいということでビルメンテナンス業者向けに好評を得ました。当社としては入口商品という位置づけで、今まで開拓できなかったお客様にアプローチし、この商品を足掛かりに関連商品の販促につなげているところです。

一方、2021年7月には完全子会社であるエタニ産業株式会社を吸収合併しました。これにより、経営資源の集約によるコスト削減効果も表れてくると期待しています。プール水質浄化剤における業界での高い認知度を活かしつつ、新たな市場開拓を進めていきます。



当期新たに投入した商品やトピックスがありましたらご紹介ください。



バックモニターの搭載や低床化などにより差別化を図った搭乗式床洗浄機「スクラブメイトMM g730Plus」や、日本の道路事情に合わせた国内初の左ハンドル仕様の搭乗式大型清掃機「AM9D-Ⅲ LH」につきましては、引き続き好調でした。しかし、海上コンテナ不足などにより、生産が終わっていても国内に持って来られないなどの問題があり、受注残が出てしまいました。

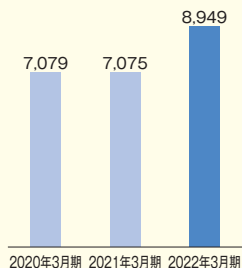
また、ここ数年特に世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、様々な業界で衛生対策、抗菌対策のニーズは高まっています。

こうした中、床洗浄機や高圧洗浄機など一部の商品で抗菌ボディなどの対応を進めてきました。食品業界などでは汚水を吸ったときの臭いやバクテリア発生を抑えられるなどの効果や、コロナ対策として作業者が触っても安心ということで、今後も抗菌対応のラインナップを拡充していきます。

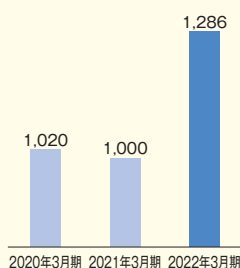
さらに、強アルカリイオン電解水生成機「ZKシリーズ」で生成するアルカリイオン電解水において、ヒトコロナウイルスに対しての不活化効果が認められました。新型コロナウイルスにも同様の効果が期待できることから、感染予防に貢献できるものと考えています。なお、ZKシリーズで生成されたアルカリイオン電解水については、「ZKウォーター」という名称で商標登録をしました。

● 財務ハイライト (単位:百万円)

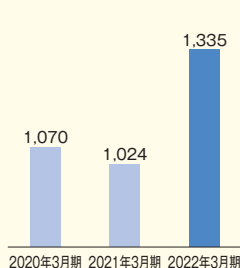
● 売上高



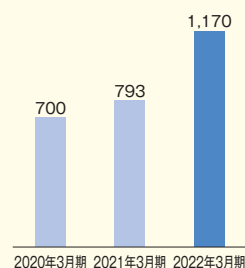
● 営業利益



● 経常利益



● 当期純利益



※2021年3月期までは連結の数字を記載しております。

ZKシリーズについては、卓上タイプの「ZK-mini」を市場に投入し、飲食店等の小規模店での使用を可能にしましたが、コロナの影響で休業されている店舗もあり、思うような浸透はできませんでした。今後は、衛生分野を含め、新たな市場の開拓を模索していきます。



来期の商品開発の方向性について お聞かせください。



新商品開発力は当社の強みの一つで、「メーカー機能を持った専門商社」として、日本の市場にマッチしたものを世界中から探し出し、共同で開発なども行ってきました。しかし、ここ数年は、海外メーカーとの対面での交渉ができず、海外メーカーも新規開発が進まない状況となっていました。

その中でも、引き続き作業の機能性や安全性の向上、人手不足や働き方改革で高まる自動化ニーズへの対応を行っていきます。来期は、夏頃を目処に清掃ロボットの投入を予定しています。お客様がロボットに求めるのは、完璧な清掃というよりはプラスアルファの要素が高いと感じています。もちろん、大きなゴミが取れなくてはいいませんが、ただ走行するだけではなく、例えば、商業施設などでは、お客様に話しかけたりすることも求められています。当社としても様々な要望を聞きながら、人に楽しんでもらえる清掃ロボットの開発を行ってまいります。従来のオフィスビルだけではなく、商業施

設やアミューズメント施設などへの導入といった今までにない分野への広がりが期待されます。

また、2050年までに二酸化炭素の排出量をゼロにするという政府のカーボンニュートラルの宣言を受け、商品の電動化や、廃棄を含めたりサイクルによる資源循環型社会への貢献も、メーカーと一緒に進めていければと考えています。



今後の営業戦略や社内体制の改革 についてお聞かせください。



前期にお話しさせていただいた情報システムや社員教育などの喫緊の課題については、来期も継続していきます。システム関係では、テレワークが可能なシステムの再構築を進めており、2023年にはスタートできる見込みです。当社の営業スタイルとして、ユーザー先へ当社の商品を持ち込み、実演を行い、その良さやメリットを知ってもらうことは欠かせませんが、リモートや新たに作るツールなどを積極的に活用し、さらなる営業の効率化を図っていきます。

この2年間は、全国21カ所の営業所や各地域の販売代理店を通じたユーザーへの提案営業のための講習会や勉強会などができずにいましたが、今後はリモートやテレビ会議などの活用も考えていきます。

社内体制に関しては、将来の戦力を育てる新人教育や、政府の65歳定年制の義務化を見据えた豊富な知識や経験を持つベテラン社員の定年

延長や再雇用制度の整備を進めていきます。

当期業績は好調でしたが、前期からの課題は積み残しになってしまいました。社内では、コロナ禍での営業活動も3年目を迎え、もうそれを言い訳にすることはできないと常に言っています。当期を足掛かりに、新たなスタートラインに立つという思いで、来期以降、気を引き締めてさらなる成長を目指していきます。



株主還元を含め、株主の皆様へメッセージをお願いします。



配当につきましては、配当性向40%程度という利益還元の目標を維持し、当期の配当については、業績を勘案し、期末配当を当初予定より14円増配の46円とし、年間配当を78円といたしました。

なお、東証の市場区分見直しを受け、2022年4月よりスタンダード市場へと移行いたしました。来期は当期積み残した課題を具現化させることが第一の目標です。中長期的には2026年3月期の第70期の節目に向かって経営計画を進めています。大きく飛び上がるためには、一度身をかがめ、力を蓄えることが必要です。来期はそうした将来の飛躍のための基礎作りと位置づけています。

また、企業の社会的な責任を意識し、2021年12月には本社ビル、配送センター及び横浜営業所で使用するすべての電力を100%再生可能エネルギー由来の電力契約に切り替えました。今後、



ペーパーレス化や、商業車両の低燃費化など、環境経営を意識した取り組みにも力を入れていると考えています。

第70期への飛躍を目指すうえでは、これからの3、4年が重要な年になります。社会的な変化に立ち遅れることがないようにスピード感を持って経営を進め、株主の皆様のご期待に応えていく所存です。株主の皆様におかれましては、これからも変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

清掃機器部門

売上高

1,516 百万円

主要商品

動力清掃機、真空掃除機、カーペット清掃機、泥層・水層除去機

当期は、搭乗式の動力清掃機の販売が堅調だったこと等から、増収となりました。

●搭乗式大型動力清掃機 「AM9D-Ⅲ LH」

日本専用モデルとして左走行に合わせて運転席、サイドブラシを左側に配置したことでサイドブラシの動きを直接確認しながら、作業することができ、安全性と効率性が高まり、レンタル業界を中心に好評を得ています。



●スティック型サイクロンバキュームクリーナー 「スピアーサイクロンプロ」

高耐久かつ高効率で高出力が出せるカーボンブラシレスモーターを採用。カーペットはもちろん店内のセラミック床やフロアマット、自動ドアの溝など、現場に要求される様々なシーンに対応する回収能力を有しています。



洗浄機器部門

売上高

4,620 百万円

主要商品

自動床洗浄機、カーペット洗浄機、カーペット濯ぎ洗い機、高圧洗浄機、スチーム洗浄機、振動式洗浄機

当期は、コンシューマー向けの家庭用リンサーの販売が伸長したこと等から、増収となりました。

●超高速振動自動床洗浄機 「マイクロマグ600抗菌」

超高速振動テクノロジーで従来方式では成しえない、均一でムラのない洗浄・研削を実現。無機系抗菌剤を回収タンク表面に使用することで細菌の増殖を抑制し、臭いの発生を抑え、病院や介護施設など高い衛生管理が求められる業界に好評をいただいているTSA認定商品です。



●軽量小型自動床洗浄機 「スクラブメイトミニ350B抗菌」

強力なバキュームモーターとブラシの動きに追従するカーブスクイジーで汚水の吸い残しがありません。回収タンクその他、ハンドルにも無機系抗菌剤含有の樹脂を使用し、細菌の増殖が抑制されることで、回収タンク内での臭いも少なく、作業者から大変好評をいただいているTSA認定商品です。



その他部門

売上高

2,812 百万円

主要商品

強アルカリイオン電解水生成機、部品及びメンテナンスサービス、清掃・洗浄機用消耗品及びアクセサリ、水質浄化剤、一般家電製品、その他

当期は、清掃・洗浄機器用アクセサリーの販売が堅調だったこと等から、増収となりました。

●強アルカリ電解水生成器 「ZK-mini」

好評を得ている強アルカリイオン水生成器「ZKシリーズ」のコンパクトタイプ版。従来機と同様、pH13.1の濃縮イオンを生成できることに加えて、狭い場所にも設置が可能であるため、飲食業等の様々な分野での利用が広がっております。



●ブルー洗浄剤 「アクアビル」

陽イオン高分子凝集剤が水中の微粒子を凝集することで清掃フィルターにかかりやすい状態にし、水の透明度を高めます。



① 流動資産

主として現金及び預金が1,012百万円、売掛金が258百万円増加したこと等により、前事業年度末に比べ13.2%増加し、10,599百万円となりました。

② 固定資産

主として子会社の吸収合併により土地が96百万円増加したものの、その他が272百万円減少したこと等により、前事業年度末に比べて2.8%減少し、4,141百万円となりました。

③ 流動負債

主として未払法人税等が265百万円増加したこと等により、前事業年度末に比べて34.7%増加し、1,105百万円となりました。

④ 固定負債

主として役員退職慰労引当金が22百万円減少したものの、退職給付引当金が51百万円増加したこと等により、前事業年度末に比べて2.9%増加し、1,038百万円となりました。

⑤ 純資産合計

主として利益剰余金が810百万円増加したこと等により、前事業年度末に比べて6.8%増加し、12,595百万円となりました。

CHECK!

2022年3月期決算の詳細は
当社HP(IR情報)に掲載しています。

<https://www.zaohnet.co.jp/ir/>

● 貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	第66期 (2022年3月31日現在)	第65期 (2021年3月31日現在)
(資産の部)		
① 流動資産	10,599	9,359
現金及び預金	3,938	2,926
受取手形	524	530
売掛金	1,540	1,281
有価証券	3,599	3,599
商品	940	853
前渡金	6	—
前払費用	19	15
その他	29	152
貸倒引当金	△0	△0
② 固定資産	4,141	4,258
有形固定資産	3,419	3,340
建物	1,250	1,261
構築物	33	31
機械装置	6	3
車輛運搬具	6	8
工具器具備品	13	21
土地	2,109	2,013
無形固定資産	95	9
投資その他の資産	626	909
投資有価証券	265	325
出資金	23	23
繰延税金資産	277	227
その他	59	333
貸倒引当金	△0	△0
資産合計	14,740	13,618
(負債の部)		
③ 流動負債	1,105	820
支払手形	8	27
買掛金	240	227
未払金	158	162
未払費用	154	140
未払法人税等	290	25
未払消費税等	97	45
賞与引当金	112	103
商品保証引当金	10	7
その他	32	81
④ 固定負債	1,038	1,009
退職給付引当金	600	549
役員退職慰労引当金	137	159
再評価に係る繰延税金負債	172	172
その他	128	128
負債合計	2,144	1,830
(純資産の部)		
株主資本	12,261	11,451
資本金	2,077	2,077
資本剰余金	2,402	2,402
利益剰余金	8,539	7,729
自己株式	△757	△757
評価・換算差額等	334	337
その他有価証券評価差額金	△8	△1
繰延ヘッジ損益	11	7
土地再評価差額金	331	331
⑤ 純資産合計	12,595	11,788
負債・純資産合計	14,740	13,618

● 損益計算書

(単位：百万円)

科 目	第66期	第65期
	(2021年4月1日~ 2022年3月31日)	(2020年4月1日~ 2021年3月31日)
売上高	8,949	6,823 ⑥
売上原価	4,966	3,418
売上総利益	3,982	3,405
販売費及び一般管理費	2,696	2,436
営業利益	1,286	968
営業外収益	48	45
営業外費用	—	6
経常利益	1,335	1,007
特別利益	42	54
特別損失	—	238
税引前当期純利益	1,377	824
法人税、住民税及び事業税	252	22
法人税等調整額	△44	11
当期純利益	1,170	789

● キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	第66期
	(2021年4月1日~ 2022年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,295 ⑦
投資活動によるキャッシュ・フロー	△87 ⑧
財務活動によるキャッシュ・フロー	△361 ⑨
現金及び現金同等物に係る換算差額	6
現金及び現金同等物の増減額	854
現金及び現金同等物の期首残高	6,525
現金及び現金同等物の期末残高	7,538

⑥ 売上高

主にコンシューマー向けの家庭用リンサーの販売が伸長したこと等から、前年同期比31.1%の大幅な増収となりました。

⑦ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は、1,295百万円となりました。収入の主な要因は、税引前当期純利益が1,377百万円、減価償却費が81百万円であり、支出の主な要因は、売上債権の増加額が211百万円、棚卸資産の増加額が61百万円あったこと等によるものであります。

⑧ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は、87百万円となりました。支出の主な要因は、無形固定資産の取得による支出が86百万円、有形固定資産の取得による支出が51百万円であり、収入の主な要因は、投資有価証券の償還による収入が50百万円あったこと等によるものであります。

⑨ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は、361百万円となりました。支出の主な要因は、配当金の支払額が360百万円あったこと等によるものであります。

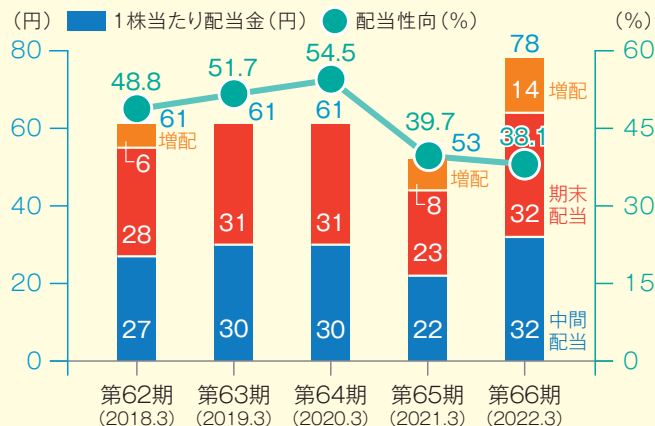
株主還元方針

当社は、株主の皆様への利益配分と会社の体質強化のための内部留保との調和を図りながら、配当につきましては配当性向重視の方向を維持してまいります。

配当金額の決定につきましては、株主の皆様にも長期的な観点で当社株式を保有していただくため、当社グループの事業展開や財務状況のほか会計基準の変更等特殊要因による業績変動等を総合的に勘案し、今後、毎期の業績に応じて配当性向40%程度を目標としてまいります。

なお、当期の1株当たり期末配当金につきましては、当期の業績等を勘案し当初予想から14円増配の46円とし、中間配当32円を加えて年間配当は78円といたしました。

1株当たり配当金と配当性向



● 会社の概況 (2022年6月24日現在)

社名 蔵王産業株式会社
本社 東京都江東区毛利一丁目19番5号
 TEL 03-5600-0311

資本金 20億7,776万円

役員
 代表取締役社長 沓澤孝則
 常務取締役 竹村 洋
 常務取締役 御幡純平
 取締役 村上正俊
 取締役 会田 南
 常勤監査役 田口 稔
 監査役 川添利賢
 監査役 宮崎雅俊

営業品目 動力清掃機、カーペット清掃機、泥層・氷層除去機、真空掃除機、自動床洗浄機、カーペット洗浄機、カーペット濯ぎ洗い機、高圧洗浄機、スチーム洗浄機、振動式洗浄機、部品及びメンテナンスサービス、清掃・洗浄機用消耗品及びアクセサリー、その他

営業所
 札幌営業所 仙台営業所 宇都宮営業所
 水戸営業所 船橋営業所 川越営業所
 東京営業所 横浜営業所 長野営業所
 新潟営業所 静岡営業所 金沢営業所
 名古屋営業所 京都営業所 大阪営業所
 神戸営業所 岡山営業所 広島営業所
 高松営業所 福岡営業所 鹿児島営業所
 商事営業本部
 配送センター及び試験研究室

● 株式の状況 (2022年3月31日現在)

発行可能株式総数 22,000,000株
 発行済株式総数 5,726,121株 (自己株式539,879株を除く)
 自己株式数 539,879株

● 株主の状況

総株主数 19,088名

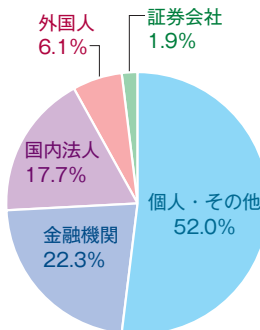
● 大株主の株式所有状況

	持株数	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行(株) (信託口)	422,700	7.38%
(株)TNNアドバイザーズ	313,600	5.48%
(株)三井住友銀行	276,000	4.82%
(株)千葉銀行	230,000	4.02%
学校法人麻生塾	230,000	4.02%
蔵王産業従業員持株会	193,780	3.38%
東京美装興業(株)	158,400	2.77%
土方孝悦	154,900	2.71%
(株)日本カストディ銀行 (信託口)	121,600	2.12%
東京海上日動火災保険(株)	120,000	2.10%
合 計	2,220,980	38.79%

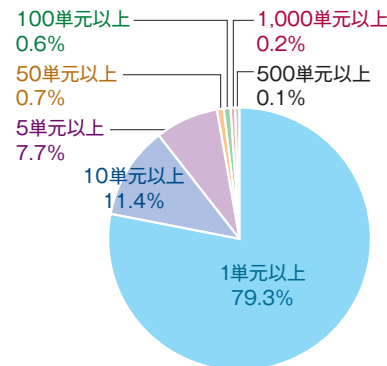
(注) 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

● 株式分布状況

所有者別株式数構成比



所有株数別株主数構成比



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	TEL：0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。

● 住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

● 未払配当金について

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

● 「配当金計算書」について

配当金支払いの際送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。

● 特別口座について

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設いたしました。特別口座についてのご照会及び住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。